

# ささえ愛

北宇和高等学校  
人権委員会  
2024 9月号

## 人権を守るためにも考えておきたいこと

教育相談課



一つ例を挙げましょう。2017年6月、某航空会社は、離島の空港に、階段式のタラップ（飛行機に乗るための移動式階段）しか備えていませんでした。その空港を利用した車いすの乗客に対して、「担ぎ上げるのは危険だから」とか「歩けない人の単独搭乗は認められない」と対応し、自力（腕力）でタラップを登らせてしまうという事案が発生しました。会社は後に謝罪し、車いす昇降機も備えることになりました（これを合理的配慮といいます）。しかしこの問題の本質はここではありません。

この会社の対応について、当事者の車いすの方は問題提起を行いました（当然ですね）。その後、この問題提起を行った当事者に対してバッシングが展開され、ネットが炎上する事案が発生しました。

日本は障害者権利条約の締約国です。障害者差別解消法も存在します。その法律には当然「合理的配慮」の条項も盛り込まれています。しかし当事者がその実現を求めるとバッシングに晒される。極めて残念なことです。

現在、ネットにおいては、社会契約的で人権を保障するための「表現の自由」は、意識して守らなければならない概念からは外れつつあります。ネットを使うために金を払っているのだから、どうしようが基本的に買い手の自由。さらに自由に発言できるので、法律によって定められた「社会契約」よりも、ネットの方が即効性に優れていて、瞬時に自分の声を伝えてくれると錯覚してしまう。

だから簡単に「誘惑」されてしまう。

禁止されていても、社会通念上ふさわしくない状況でも、ついスマホ等を使ってしまう（誘惑）。

これは社会的には良くない行為です。しかし「このくらい別にいいだろう」との意識があれば、その行為は、より悪い行為へとつながってしまいます。「良くない」と「悪い」の違いは状況と程度の差だけです。

ほとんどの人は「自分が間違っただけをしている」という実態を受け止めきれない傾向があります。自分たちの行為は悪いことだと認めたくない。そうすると「正しい」とか「正義」とかのキーワードや考え方を持ち出してくるようになり、そうして自分を正当化していきます。

そうなってしまうと、人は断罪を受け入れにくくなり、逆に相手を攻撃するようになります。

そうして「差別」は正当化されてしまい、人権は平然と踏みにじられてしまいます。

表面化した現象や事件に対して「差別はいけません」とか「思いやりを持ちましょう」といった教育感だけでは、この壁を克服することは難しいと思われます。

今、どのようなことが心配・危惧されるのか、このようなことが起こったら場合どう行動するのか、あらかじめ自分の姿勢や考えを「準備」しておけば、何かが起こったとき「どうすればいいのだろう」から「どうすることが好ましいのか」と意識は変わってくるはずで

例えば、心の中で「自分は正しい」と思うこと、それは自由です。

しかし、それが行動や言動になって表れた場合に、「自分は正しいから」が「人を傷つけてもよい」という理由には決してなりません。前提として、いかなる理由も人を傷つける理由にははいけません。

そのような明確な意志をあらかじめ心の中で準備しておくこと。

それは自分が生きやすくなるだけでなく、人権を守っていくためにも大切なことだと思います。

感想・意見 ( )年( )組

----- 切り取り線 -----

※ 人権だより「ささえ愛」では皆さんの感想、人権についての考えを募集しています。

## 7月号の感想を紹介します。

ユニセフの調査結果から考えた内容でしたわ。



困った時は親や先生だけでなく、他にも頼れる人に相談できる人間関係を日ごろから大事にしようと思った。

しんどくなったり嫌になったりすることはあるけど、困った時に頼れる人はいるので、頼って、自分も頼られる人になりたい。

生活していく中で人間関係が難しい時もあるけど、自分も相手も大切にして幸せを感じる時間が多くなってほしい。

より良い人間関係を作るには自分の日頃からの行いが大切なので、日頃から言動に気を付けて生活していきたい。

自分もいろいろなことをマイナスに考えてしまう方なので、これからはプラスの方に考えられるように意識したい。

人間関係は本当に重要だと思う。あまり人と関わらなかった1年の初めと関わりだしてからは全然違うし、関わることでよい刺激ももらえるから人間関係の大事さは日に日に感じる。

「人間関係が大事だ」ということは理解しているが、どうすればいいのかわからない。でも居場所を作るために必要だ。そのためどう良好にしていくか考えることが必要だと思う。